カトリック
広島教区報

前田大司教、大阪の大司教に
広島教区は空位、教区管理者に肥塚神父

バクルスの引き継ぎ、池長大司教と前田大司教

九月二十三日（祝・火）、前田万葉大司教は、広島教区を離れ、大阪教区の大司教に就任した。大阪教区カテドラルの近くにある大阪明星学園マリアンホールで着座式が行われ、司教、司祭、修道者、信徒二千五百人以上が集まった。これにより、広島教区は次の司教が任命されるまでの間、司教座空位となる。この着座ミサの献金は八月二十日の広島土砂災害への支援としてささげられた。また、肥塚侾司神父が広島教区管理者として選ばれた。

＊教区管理者とは
司教区の臨時かつ暫定の統治者。司教座空位時に顧問団によって選出される。

No. 98
カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区幟町 4-42
広島司教館内
TEL（082）221-6017

前田大司教メッセージ　一面
教区の動き・津和野殉教者列聖運動・堅信者　二・三面
平和行事報告・大阪司教着座式・平和俳句　四・五面
広島土砂災害支援・J－CaRM他　六・七面
地区・海峡からの風・施設・青少年・ひと粒　八～十面

大阪へ広島からや竹の春

前広島教区長　**前田　万葉**

広島教区の皆さん、このたびの転任では大変ご迷惑をおかけいたしました。三年前に広島教区長・司教叙階でお世話になったばかりなのに、もう送別ミサを挙行していただくことになり大変申し訳なく思っております。その上、司教空位の不自由、そして、新司教叙階式のお世話という重荷まで背負わせてしまうことになってしまいました。

広島教区司教になり三年目を迎えた新年・馬年に、**「飾り馬三歳馬にも馬力あり」**と詠み、広島教区の百周年までの十年を三歳馬のようにダッシュしようと決意したばかりなのにと悔やまれます。

しかし、**「お言葉ですから、網を降ろしてみましょう」（ルカ五の五）**という「みことば」が、ますますわたしを縛り付け、**「断れず網を降ろすや秋の阪」**ということになってしまいました。ジョセフ・チェノットゥ教皇大使から、「教皇フランシスコによる大阪大司教任命」を伝えられたのが七月二十五日でした。直後二十七日（年間第十七主日）の玉島教会公式訪問・堅信式では、だれにも相談できず、まさに自分のための堅信（神さまのことを堅く信じる）ミサでもありました。**「大阪に広島からや祈る夏」**、**「吾輩にソロモンの知恵祈る夏」**（当日の第一朗読がソロモンの知恵の箇所）と詠み、「受堅者と共にわたしにも聖霊のお恵みを」と、祈ったものです。

また、わたしの任命発表の**八月二十日の未明**、こともあろうに「広島土砂災害」が起きてしまいました。広島でこのような悲惨な出来事が起きたことを自分の責任のように感じ、悲しみに沈みました。広島の人たちにはもちろん、大阪の人たちにも申し訳なく思う日々が続きました。そのためか、また**「なぜ、わたしが大阪に?それも、たった三年もたたない広島から!」**と、愚痴ばかり出してしまうので、もう祈るしかないと開き直ることにしました。おかげさまで、**「大阪へ広島からや竹**

の春」とポジティブでプラス思考に受け止めようと思えるようになりました。まず、「大阪へ」とは、「大震災をきっかけに、二十年目になる大阪大司教区の新生計画」を**青々と壮健な秋の竹（竹の春）**として頼もしく受け継ごうと決めました。そして、「**広島からや**」も、春竹が自らを犠牲にして育んできた**秋の若竹（竹の春）**ととらえて、必ずや、広島教区が、この災害も乗り越えて十年計画を力強く実践・証してくれるものと確信することにしました。

広島教区の皆さん、どうぞ、「平和」をベースに、召命促進・青少年育成（教区予備神学校、教区共通教理書、司祭召命）、乙女峠殉教者列福列聖（信仰高揚）に励んでください。そして、広島教区九十周年から百周年に向けてのテーマ、「平和の使徒となろう　**チャレンジ　新しい福音宣教**　～わたしをお使いください～」を、四つの期間・標語（既報の各チャレンジ）としてしっかりと歩んでください。

無能で不束なわたしです、どうか、わたしと大阪大司教区のためにも、忘れないでお祈りください。

広島教区の皆様と広島土砂災害犠牲者の皆様の上に神の必要なお恵みとお助けがありますようにお祈りいたします。

＊着座式の写真は五ページ

教区の動き
平和の使徒推進本部

前田司教の大阪大司教任命によって、広島教区は新しい司教が選ばれるまで司教座空位となったが、基本的には教区の宣教司牧活動はこれまで通り継続されることになる。

この三年間の教区の優先課題は、広島教区司祭の誕生促進を中心として①青少年育成委員会②召命促進委員会③津和野殉教者列聖運動④教区共通カテキズム（初聖体、堅信、結婚）の作成であった。

これらはすべて、教区全体の信仰の力を強めることをめざしている。

また、二〇二三年の広島教区創立百周年に向かって、「平和の使徒となろう　**チャレンジ　新しい福音宣教**　～わたしをお使いください～」をモットーに、二〇一四年～二〇一六年を「家庭へのチャレンジ」として意欲的に信仰生活に取り組んでいる。

さらに、「平和の使徒」となることを固有の召命と宣言する広島教区にとって、来年の被爆七十周年は特別な意味をもっている。世界平和記念聖堂献堂六十周年の今年からの一年間が「平和年」と定められた。特に毎月「六日」を「平和の日」とし、平和を祈り、平和を学び、平和のために働く意識を高めるシンボルの日として大切にしていこう。

津和野乙女峠殉教者　列聖運動

広島教区列聖委員会は、前田大司教臨席のもと、九月十九日（金）に「歴史部会」、九月二十日（土）に「推進部会」を開催した。

①シンポジウム開催

「津和野殉教者の列聖をめざして」をタイトル、「日本の信徒発見百五十周年」をサブタイトルとして、広島と長崎でシンポジウムを開く。

(1)広島での開催

日時：二〇一五年一月十二日（月・成人の日）
十三時～十六時
場所：エリザベト音楽大学
セシリアホール
シンポジスト：前田万葉大阪大司教、平林冬樹神父、筒井砂　列聖委員会委員

広島教区の信徒と、特に大阪教会管区の司教たちに、本列聖運動に対する関心を持ってもらい、認識と理解を深めてもらうことを目的として開催する。

同時に、司教総会で、列

聖調査の開始の申請を教皇庁に求めることへの同意をえるために、運動への取り組みの実績をつくる。

なぜ今、津和野殉教者の列聖運動をするのか、今日的意味について、浦上四番崩れから津和野流配・殉教に至るまでの歴史的背景、なぜ三十七人を列聖の対象としたかなどがテーマとなる。

(2)長崎での開催

日時：二〇一五年三月八日（日）十六時～

場所：長崎カトリックセンター

シンポジスト：高見三明長崎大司教、前田万葉大阪大司教、その他

津和野　千人塚（殉教者の墓）

浦上四番崩れのキリシタンのうち、なぜ津和野の殉教者だけの列聖運動を推進するのかとの声に対して説明をし、意見を求めて、主に長崎教区の司祭や信徒の本列聖運動への関心と意識をたかめることをめざして開催する。

津和野殉教の歴史的背景を「点」ではなく「線」でとらえ、そこから浮かびあがってくる殉教の今日的意味を明らかにし、殉教に至らなかった信徒たちや、浦上帰還後の信仰生活にも光を与えてゆくものとする。

②津和野殉教者のレリーフのレプリカ作成

列聖運動の機運を高めるため、津和野殉教者レリーフのレプリカを作成し、広島でのシンポジウムの日（二〇一五年一月十二日）から、広島教区の小教区を巡回させ、列聖のための祈りを唱えてもらう。そして、最終的には、来年の乙女峠まつりの日（二〇一五年五月三日）のミサに奉納する。

広島司教区 堅信を受けられた方（2014 年 1 月～ 9 月まで）
おめでとうございます！

◆東広島教会　5月25日
ペトロ小池彬 / 関マーク啓二 / ベルナデッタ長坂優衣 / 橋口フェルナンダ / マリア水元愛華 / テレジア前川佳代 / パウロ宮田善文 / ヨハンナ・テクラ宮田丹奈 / レオンハルト桑田一

◆幟町教会　6月8日
小さき花のテレジア竹原陽子 / コンラド川本浩 / ルカ田村健司 / マリア・ジュリー池田良枝 / マリア山田典子 / マリア・ファウスティナ新庄浩子 / マリア森長京子 / ルチア吉村美子

◆祇園教会　6月22日
ベルナデッタ阿南玲香 / テレジア池澤愛子 / クララ伊藤裕美 / アンドレア大村佐介 / ラファエル岡崎惇介 / アシジのフランシスコ小田敦也 / マキシミリアノ・マリア・コルベ落合創大 / マリア川口菫 / 小さき花のテレジア木戸晴江 / セシリア木戸みどり / ペトロ佐藤竜也 / マリア・ゴレッティ佐藤陽子 / パウロ佐藤竜太 / マリア鈴木美智子 / ヨハネ・パウロ畠山乾海 / テレジア畠山眞里 / モニカ東一子 / セシリア福田琴弓 / マリア・マグダレナ宮原恵里沙 / 無原罪のマリア室田彩希 / パウロ渡辺俊之

◆細江教会　6月29日
アグネス平野敏子 / マリア・アナスターシャ上田洋子 / 使徒ヨハネ澤崎保成 / カスタニェーダ・エンジェル / アンナカスタニェーダ靖代 / トマス・アクィナス菊野京一 / テオドラ佐伯詩那乃 / マリア・テレジア森実輝 / ヨゼフ田川澄義

◆彦島教会　7月6日
ペトロ岩永和樹 / アシジのフランシスコ木谷隆行

◆岡山教会　7月13日
フランシスカ矢部瞳 / アウグスティヌス今田吉紀 / マリア・マグダレナ橋本美穂子 / マルグリット・マリー赤羽美鳥 / マルグリット・マリー大空博子 / 使徒ヨハネ藤田裕一 / ニコデモ三木功夫 / クリスティーナ・マリー笠原幸子 / マリア・アスンプタ花岡弘子 / マリア・マグダレナ三宅雅子 / フランセス三好幸知恵 / セシリア吉田まどか / ヨゼフ羽原一正 / セシリア原田久美子 / ステファノ柚木薫 / マグダレナ・ソフィア・バラ柚木ますみ / マリア・モニカ笠松元子 / 使徒ヨハネ藤野憲一 / クララ入江茄奈 / ジュリー・クリスティン橋本渚 / アシジのフランシスコ福田晴久 / マーク・ジョセフ野間賢二 / パウロ廣瀬壮汰 / クララ廣瀬優那 / テレジア野口あかね / マザーテレサ野口かんな / パウロ藤田英佑 / エリザベスマクグラス汐音 / アンジェリカ野間アンジェリカ

◆呉教会　7月20日
ノゾミ森岡望 / マルガリータ・マリア・アラコック村上恒子 / Yamada Amanda Akemi / Adorerou A.Mahilum / Neriusu A. Patino Ⅱ / Arlene Takenaka / Araceli P.　Tanaka

◆玉島教会　7月27日
マリア石井純子 / ヨハネバィスト磯正嘉 / ヨセフ松本利夫 / マリア宗高優美 / ヨセフ山井一彦

◆水島教会　7月27日
カノイ藤都クリスティナ

◆倉敷教会　7月27日
カルメル山の聖母マリア・ロザリア丸橋愛音 / マリナ吉村マリナ

◆浜田教会　8月24日
マリア・エディト・シュタイン谷真琴 / ベルナデッタ、テレジア谷美鈴 / アウグスチヌス竹本孝

◆鳥取教会　8月31日
テレジア濱岡紅衣 / マリアヴェロニカ松本弓乃 / ステファニア山根心 / キリストファロ山口健次 / マリア・パウラ千坂智子

広島教区平和行事報告

『過ちは繰返しませぬから』
～被爆後七〇年に向かって～

松浦悟郎司教

今年の平和行事も例年通り世界平和記念聖堂で八月五日・六日・九日の三日間、開催された。「『過ちは繰返しませぬから』～被爆後七十年に向かって～」をテーマに全国から集い、学び、祈った。

三月に第一回の平和行事実行委員会が召集され、広島から「平和アピール」を発表された聖ヨハネ・パウロ二世の列聖と八月六日が世界平和記念聖堂献堂六十年と来年が原爆投下七十年を念頭に、「一九四五年八月六日」「ヒロシマ」の意味をしっかり考え、世界平和記念聖堂を建立されたラサール神父の熱い志を受け継ぎ、恒久平和への道を歩む決意を新たにする思いで、プログラムが計画された。

五日は「基調講演」・「分科会」・「平和の祈り」・「日本聖公会との合同プログラム（祈りの集い・平和行進・平和祈願ミサ）」・「テゼの祈り」が行われた。

基調講演は、松浦悟郎司教（大阪教区）が行い、集団的自衛権の行使、特定秘密保護法等、国家の体勢が変わりつつあるなか、私たちの生活に関わることを見過ごさないように、また、キリストのみ旨に叶うよう平和のための行動に移すよう呼びかけられた。

分科会は、被爆証言、憲法、福島、子どもプログラムと多岐にわたるテーマで平和について学び、考えた。

日本聖公会との合同プログラムでは、平和公園原爆供養塔の前で静かに祈り、約四百人が世界平和記念聖堂に向けて平和行進を行った。平和祈願ミサは前田司教が主司式で司教十一人と司祭団の共同司式で行われ、説教は日本カトリック正義と平和協議会会長の勝谷太治司教（札幌教区）が行い、非暴力を貫くところにしか平和の道はないと語られた。ミサには教皇庁諸宗教対話評議会次官補インドゥニル・コディスワック神父も参列され、約六百人が参加した。そして、来年被爆七十年となる二〇一五年八月六日までの一年間を「平和年」とすることを、前田司教が宣言された。

六日は「原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサ」・「世界平和記念聖堂献堂六十周年記念講演」・「世界平和記念聖堂案内」・「ピースウォーク」・「キリスト者平和の祈り」・「フォーレ・レクイエム」コンサートが行われた。

原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサが始まる前、被爆絵本が朗読され、原爆投下八時十五分に鐘の音とともに黙祷し、前田司教の主司式で約三百五十人が参加した。世界平和記念聖堂はこの日献堂六十年を迎え、五日の平和祈願ミサと六日の原爆・すべての戦争犠牲者追悼ミサでのキリストに繋がる人々の祈りは、六十年前と変わらない祈りであったに違いない。

ミサ後、世界平和記念聖堂献堂六十年の記念講演や祈りなどが行われた。ピースウォークは広島城周辺を企画した。軍都廣島の歴史を振り返り、大陸への足掛かりとなった歴史が、廣島を発展させた事実を忘れないよう、その上で、原爆の被害を語ることが、大切なのではなかろうか。

九日の長崎原爆犠牲者追悼ミサでは原爆投下十一時二分に鐘の音とともに黙祷し、ミサを捧げ、三日間の行事を終えた。

また、平和俳句も三年間続き、多くの投句があり、前田司教が選句した万葉賞が贈られた。

今年は天気に恵まれず、雨模様の中での行事となったが、必要な時に雨が小降りになったり、やんだりし、何とか無事に終えることができ、聖霊の助けを感じた三日間となった。

「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことである」という、聖ヨハネ・パウロ二世の平和アピールを、今一度思い起こし、来年の八月六日までの平和年を「平和の使徒」となることを意識して祈り、働きましょう！！

平和祈願ミサの様子はYouTubeで、ご覧いただけます。「2014平和祈願ミサ」で検索してください。

高山右近ゆるキャラ「うーこんどの」と

前田 万葉 大司教様 大阪司教着座 おめでとうございます

平和俳句 万葉賞 二〇一四

平和行事二〇一四の企画として、広島教区内で平和俳句を募集しました。優秀俳句は以下の通りです。

《大人の部》

① 原爆忌求めてやまぬ主の平和　（水島）辻妃代子
② 暗き世に十薬の花ただ白し　（岡山）今川千代子
③ 巡礼のごとく鴨来る被爆川　（廿日市）平田百合子
④ 花筏御霊を載せて被爆川　（廿日市）平田百合子
⑤ 慰霊碑に平和祈願や蝉しぐれ　（観音町）沖山光璋
⑥ 千羽鶴世界に羽ばたけ雲の峰　（観音町）沖山光璋
⑦ 原爆忌平和アピール新たにし　（廿日市）三浦まゆみ
⑧ 緑陰に語り部の声子らの声　（廿日市）河原典子
⑨ 手話で平和からくも通じ広島忌　（廿日市）平田百合子
⑩ 野のユリのように生きたし祈りつゝ　（福山）藤井恭子

《子どもの部》

① にじがでて平和のしるしうれしいな　（防府）福田千紘
② 小とりさん蚊がとんでるからはいりなさい　（福山）こばやしれんと
③ 戦争はとうとい命うばうもの　（防府）高嶋瞳子
④ せかいじゅうみんなきょうだいたすけよう　（防府）石川花恵
⑤ 子供たち元気に遊ぶ平和だよ　（翠町）進藤咲
⑥ 世界中おりづるあれば平和かな　（翠町）濱本沙耶
⑦ いきることしあわせいっぱいあるんだよ　（防府）福田千紘

《中高生の部》

① 争いはしないと誓った夏の空　（呉）高市春日
② 平和とは共に相手を赦す事　（呉）高市春日

選者句

安らかに繰返さぬと雲の峰

選者講評：前田万葉司教（広島教区長）

大人の部①句…主（キリスト）の平和福音こそ（世界）平和の柱。②句…キリストの十字架こそ世の救い・十薬。③④⑤句…鴨も花も蝉も被造物全体で「安らかに繰返さぬ」と反核反戦争を。⑥句…力強い雲を見ると千羽鶴平和も世界に羽ばたけそうだ。⑦句…被爆70年も来るし。⑧⑨句…被爆証言・反戦争がすべての人に受け継がれますように。⑩句…神の御手の中で平和を。子供の部①句…平和の虹がでますように。②句…字余りだがこのやさしさこそ平和。③句…教皇さまも広島で同じことを言いました。④句…地球家族だよね。⑤句…世界中の子供たちが元気になりますように。⑥句…平和の祈り・しるしだからね。⑦句…ほんとうにそうですよ。中高生の部①句…あの戦争？あなたの喧嘩？②句…そうです平和はゆるしです。

＊応募総数　百六十七句（七十名）
大人の部　九十三句（三十七名）
子どもの部　六十六句（二十八名）
中高生の部　八句（五名）

広島教区教会スタンプラリー完了者紹介

認定証番号第0005号

矢吹　典子さん（岡山教会）

*岡山教会の聖ディエゴ喜斎像の前で前田大司教と完了記念の撮影

広島土砂災害支援

原田豊己神父

　広島司教区は、死者七十四名を出した八月二十日の土砂災害の支援のために「カリタス広島災害サポートセンター」を立ちあげ、八月二十七日からは祇園教会と清心幼稚園のご協力のもとに「カリタス広島災害サポートセンター　祇園ベース」を中心に活動を行ってきました。

　九月二十七日までの期間、「祇園ベース」を利用してくださった方々は延べ人数で三百人を超えています。また、広島司教区にお送りいただいた支援金は、十月二日現在で二千七百万円となっています。全国からのボランティアに参加してくださった方々、ご送金くださった方々に心から感謝申しあげます。

被害があった広島市安佐南区八木4丁目

ボランティア活動

　現在、災害から一か月半が過ぎ、いまだ避難所で生活されている方もいらっしゃいますが、多数でのボランティアの必要性が少なくなってきました。社会福祉協議会も安佐北区のボランティアセンターを安佐南区のボランティアセンターに統合し、十月一日からは土日曜日のボランティア登録に切り替えています。

　それを受けて「カリタス広島災害サポートセンター」もボランティア登録を十月十二日で終了し、それに伴い「祇園ベース」も終了しました。

　「広島市社会福祉協議会ボランティア情報センター」とも協議の結果、これからの活動を以下のように考えています。

・継続してボランティアをご希望の方は、「広島市災害ボランティア本部」のホームページをご覧になって直接ご参加ください。

・現場の要請に応えるために、「ボランティア情報センター本部」に人員を派遣しました。現場の必要に応じてボランティアを募集いたします。

・今までかかわりのある「八木四丁目自治会」「八木三丁目阿武の里サテライト」からの要請に対応して行きます。

　この様にきめ細かい対応になりますので、よろしくお願いいたします。

　これまでのご支援に心から感謝申しあげます。

広島教区練成会を終えて

三宅 仁孝 神学生

　八月十一日から十三日の三日間、「わたしをお使いください」というテーマのもと、山口教会で練成会が行われました。参加者は、広島教区の小学五年生から中学三年生までの男子十七名、女子十七名の計三十四人でした。

サビエル記念聖堂（山口教会）

　二〇一四年のプログラムは、李神父様や猪口神父様のお話を聞いたり、お祈りの大切さをロイ神学生から聞き、そのお祈りに使うロザリオを作ったりしました。また、津和野の殉教者のことも学びました。ミサにも与り、侍者・朗読・共同祈願・奉納と色々な役目も果たしました。それ以外にも、ゲームをしながら班の友達の名前を覚えたり、木与（海の家、萩市）の海で泳いだりと、楽しい時間を過ごしました。食事もカレーやバーベキュー、流しそうめん等、おいしい食事がたくさん出ました。

　今年は、沢山の神父様が参加し、またリーダーも多く参加してくれました。山口教会の方にも事前の準備から、食事の用意など色々と助けていただきました。子供たちが無事に楽しく過ごせたのは、このように多くの助けがあったからだと思います。次の機会にもまた助けていただけると嬉しいです。練成会が子供たちの召命の一つのきっかけになることを祈りながら、来年の準備を始めたいと思います。本当にありがとうございました。

フィリピン・インファンタ訪問

岡山教会　小林　豊（大学生）

　私達は八月十九日から七日間、フィリピン・インファンタ教区を十七名で訪問してきました。そのうち学生が男子七名女子六名。中学生も二名参加し、互い

に助け合いながら、有意義な旅となりました。

　ホストファミリーやインファンタの人々は温かく迎えてくださり、英語があまりできない中学生達も、楽しく貴重な体験をすることができました。

　文化や言語の違いを乗り越えて、私達は一つの家族、神様の下での兄弟であると、この旅を通して改めて認識しました。

　フィリピン、韓国、日本の三姉妹教区が複雑な歴史的背景を乗り越えて交流しあうことで、平和への小さな一歩を歩めるよう、旅の経験をした私達は自分にできる何かを見つけたいと思っています。

J－CaRM広島便り

『あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい』

玉野教会
ヨハネ　グエン・クアン・トゥアン神父

　イエスは、自分は「天と地の一切の権能を授かっている」と宣言する。そして、その権能は神が授けたものであるということも明確にされている。この権能に基づき、イエスは弟子たちに「すべての民」のところに行くように命じた。「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」。（マタイ二十八の十九）

　イエスの権能は世界の全ての人々に福音を説くこと、そして「彼らを自分の弟子にすること」を含む。「父と子と聖霊」の名による洗礼を授けることを弟子たちに与えられる。イエスは弟子たちにこの権能をどのように遂行するかの指示は与えていない。しかし、使徒言行録一章で読んだように、弟子たちがこの使命を遂行できるように、聖霊が注がれるのである。

　イエス・キリストの弟子のように私が二〇一三年三月二十日に司祭叙階の恵みをいただくことになった。助任司祭として一年間幟町教会で働いた。二〇一四年四月一日にトマス・アクィナス前田万葉司教様から玉野教会主任司祭に任命され、小教区で主の群を牧することができるよう聖霊の導きと神の恵みで毎日頑張っている。

　また、現在ベトナムから日本への研修生と留学生が増えている。日本とベトナムの経済関係が拡大する中で、ベトナム人の若者にとって日本企業への就職に期待が高まっている。日本企業にとっても、日本留学経験のあるベトナム人は日本語ができるとともに、日本の文化を理解している貴重な存在となっている。だから、日本企業への就職を希望する若者が増えている。

　同時に広島教区でベトナム人信者も増えている。広島教区J－CａRMを通して外国人信者に司牧することも課題がある。今日、萩教会で六名、米子教会で十名、幟町教会で三十名、福山教会で四十五名、岡山教会で三十名の信者がいる。広島教区ですべてを合わせて百二十一名になる。母国語でミサに参加するベトナム人の希望に応じて、私が毎週日曜日に自分の教会で日本語ミサを授けて、会議が終わってからベトナム語ミサのため出かける。毎月、第一主日十六時に福山教会で、第二主日十六時に岡山教会で、第四主日十四時に幟町教会でベトナム語ミサを授けることになった。ベトナム信者たちが喜んでミサに参加している。最近、未信者研修生や留学生の中に洗礼を受ける人も増えている。

　一方、留学生たちは学費や生活費などの負担が重い。多くの留学生がアルバイトをして生活費を稼ぎながら、勉強している。また、研修生たちも企業で残業が多く、日曜日でも仕事があるのでなかなかミサに参加できない人がたくさんいる。研修生と留学生が安心して日本で働くことと学ぶことのため、自分の信仰生活が大切なのではないだろうか。

　広島教区の司祭召命のために皆さんの祈りの力が必要だと思う。私たちは主の深い憐れみに信頼することと共に、主が弟子たちに求められたように、働き手を送ってくださることを祈らなければならない。留学生たちの中から、主の呼びかけに応えて、広島教区の神学生が出るよう皆さんの祈りが大切だと思う。

地区便り

岡山・鳥取地区

＊信徒養成講座（全六回）
秘跡の中で神様と出会う

第五回「聖体授与の臨時の奉仕者と集会司式者の心得」瀧井英昭神父（福山教会）十月十一日（土）岡山教会十三時三十分～十六時まで。

＊聖書講座開講

ノートルダム清心女子大学生涯学習センターでフェリーチェ聖書講座「聖書と現代社会」が開講されます。期間：十月十一日（土）～十二月六日（土）の五回。講師：荒井献・雨宮慧・百瀬文晃・大貫隆・ノートルダム清心女子大学長高木孝子。問合せ先：ノートルダム清心女子大学生涯学習センター086-252-7045まで。

＊水島教会献堂五十周年

十月二十六日（日）十三時三十分より献堂記念ミサが執り行われます。（当日の予定等に関しては水島教会にお問い合わせください。）

＊地区宣教司牧評議員会

二〇一四年度第二回岡山鳥取地区宣教司牧評議員会が十月十二日（日）倉敷教会にて開催されました。今回は前回までとは変わり「家庭へのチャレンジ」について、各小教区から持ち寄ったテーマの取り組みと、関連する活動報告を評議員全員で分かち合いにチャレンジすることとなりました。教区テーマ〈私をお使いください〉私たち一人ひとりが主に於ける兄弟姉妹として生きることができるよう真剣に考えていきたいと思います。

山口・島根地区

＊下松教会創立五十周年

九月二十一日（日）下松教会は、創立五十周年を迎え、百人以上の参加者が集まり感謝の祈りを捧げました。また、「教会五十年の歩みの写真展」も行われました。

＊サビエル書院オープン

九月十三日（土）に山口サビエル記念聖堂前のアゴラ内に「サビエル書院」がオープンしました。営業日は、祭日、教区・地区の行事、司祭会議が行われるときです。

問い合わせ先　山口教会

＊広島教区召命合同祈りの集い

十月十七日（金）十三時～十五時半まで、山口サビエル記念聖堂において「広島教区召命合同祈りの集い」が行われました。

①予備神学校について（後藤正史神父）
②一粒会について（山口教会一粒会担当・竹内敏広）
③講話と祈り（酒井陽介神父・イエズス会）
ミサ（司式、猪口大記神父）

サビエル書院

海峡からの風 34
下関労働教育センターだより

改憲にも限界があります

●憲法に縛られている公務員が条文を都合良く解釈してはならないのは当然のことで、むしろ九十九条で憲法の遵守が規定されています。改憲の手続きは規定されているので、必要ならばそれに依ることになりますが、無条件な改憲はできません。●憲法には「基本原理」があります。日本の場合「国民主権（民主主義）」「基本的人権の尊重（人権保障）」「平和主義（戦争放棄と武力の不保持）」の三大原理です。日本国憲法はこの三つの原理を根本価値として構成されています。従って、これらの原理に背反する改憲は原理に矛盾が生じてしまい、背理となります。改憲にも限界があるのです。●安倍首相が公務員でありながら、憲法の基本原理を遵守せず、集団的自衛権の行使に向け憲法解釈することはあってはならないことです。まさに憲法を破壊する行為と言えます。

●日本は一度憲法を廃止したことがありました。太平洋戦争で日本が敗戦しGHQの占領下、帝国憲法を廃止し現在の憲法を新しく制定しました。改憲ではなく、新たな基本原理の元に作ったのです。通常平時において憲法を新たに作ることはしません。この時は敗戦によってもたらされた価値転換によって、それまでの憲法が廃止されたのです。●このように革命や敗戦などによって基本原理の見直しが迫られることがありますが、果たして現在、三大原理を見直す必要がどこにあるでしょうか？●安倍首相の解釈が可能な憲法にするならば、三大原理は見直され、現在の憲法を廃止し、「戦争憲法」を制定することになるのです。解釈のために憲法が蔑ろにされるのであれば、もはや立憲主義の国家ではなく、ナチがワイマール憲法を停止ししたように、独裁国家になってしまうのです。

（廣崎リュウ）

伯雲ブロック

＊伯雲ブロック勉強会

九月十四日米子教会にて伯雲ブロック勉強会がありました。津和野殉教者の列聖を願う意義を理解するために、清水弘神父様からザビエルの宣教、弾圧、隠れキリシタン、津和野殉教へと歴史的な背景を交えて、とても分りやすく講話頂きました。参加者はミサ八十人でした。

＊出雲教会創立五十周年記念行事

九月十五日敬老の日、出雲教会創立五十周年感謝と祝賀の行事がありました。

ミサは前田万葉司教様（九月二十三日大阪大司教にご着座）の主司式、歴代主任神父様など十一人の司祭共同司式により、厳粛かつ盛大に執り行なわれ、参列者は二百五十人（概数）でした。

出雲教会

祝賀会（三百人概数）は聖園マリア園にて、司教様の俳句「いわし雲」を四部合唱で開会し、神父様方や創立時にご尽力された元県議、伯雲ブロック代表のスピーチ、また、園児のミュージカル、出雲出身の音楽家たちの「歌の花束」、フィリピン共同体による踊りと歌、教会の子供たちの歌が披露され、最後に手話を交えて「マラナタ」を全員で歌い、共に喜びました。なお、和やかに楽しく歓談し食事をし、また司教様には広島教区での最後の公式行事を共にして頂きましたことはこの上ない喜びとなりました。

広島地区

＊「平和年」「平和の日」の行事

広島教区では、世界平和記念聖堂六〇周年記念日の今年八月六日から、被爆後七〇周年を迎える来年八月六日までの一年間を「平和年」とした。広島地区では、この一年の毎月六日を「平和の日」として行事を行う。十時から世界平和記念聖堂地下聖堂で「平和祈願ミサ」。十時四十五分からピースウォーク。ピースウォークの目的地は、

①十月六日（月）
一九四五年八月六日、ラサール神父などが避難した縮景園へ。園内の原爆慰霊碑での祈り。

②十一月六日（木）
日本キリスト教団流川教会へ。被爆した十字架の前での向井牧師の講和と祈り。

③十二月六日（土）
京橋川沿いの被爆建物・樹木を巡礼。

広島教区の施設 ㉓
学校法人小百合学園 小百合幼稚園

小百合幼稚園は一九三六年に小百合託児所として開所しましたが、一九四五年八月の原子爆弾投下により全焼し、閉園しました。そして、翌一九四六年に小百合保育園として復興した後、一九五四年に小百合幼稚園として、認可を受けました。一九八一年にはモンテッソーリ教育法を取り入れました。

一九九四年に学校法人小百合学園小百合幼稚園となり、現在に至っています。

本園では、キリスト教の愛の精神をもって、ひとり一人の子どもの自立を助けるモンテッソーリ教育の原理と方法を取り入れ、個別的な成長への配慮をもって、心豊かな社会性の育ちを目標とした保育を行っています。

現在、一クラスに年長の子どもから、満3歳児の子どもが一緒に過ごす縦割り保育をして、学年毎の活動で、心と体を一杯使って生き生きと喜んで活動しています。毎日の生活の中で自立をしていき強調性など社会性が育っていくように関わっています。

また、お隣の三篠教会に行き、静かな雰囲気の中でお祈りをしたりお話を聞くことによって、こども達に思いやりや感謝、平和な心が養われています。

楠木修道院のシスターや信徒の方々に子ども達の成長を喜んでいただき、温かく見守ってくださっています。このような恵まれた環境に感謝して、これからも平和の心を持ち続けていくよう願っています。

三篠教会

第6回アジアン・ユース・デー AYD

八月十日〜十七日 韓国デジョン教区

今回のAYDでは、グループに分かれて別の教区に滞在し、ホームステイや殉教者にまつわる聖地巡礼などをした後、デジョン教区での本大会で、グループでの分かち合い、フランシスコ教皇との出会い、徒歩巡礼、野外ライブのようなフェスティバルやミサなどが行われました。

全体を通して私が感心したのは、アジアの青年たちが自分たちの信仰を表す術をよく知っているということです。音楽、舞踊、演劇などに触れる機会がありましたが、信仰宣言、そして神への賛美と感謝を豊かに表現していました。それから、「パパ様」を見る現代の青年たちの様子から、率直でユーモアがあって、かつあたたかく励ましてくれる存在を求めているのを感じました。日本の教会がどのように信仰表現していくかについて大きな刺激を頂いた日々でした。

援助修道会 古屋敷一葉

AYD参加者の感想から抜粋

石井 美咲（エリザベト音楽大学）
私はキリスト教信者ではないけれど、一つの宗教を信じているということだけで、こんなにも多くの人々が一つになれるという素晴らしさを知りました。

和田里 花（宇部教会）
このたびの韓国では、AYD初「パパさま来訪」もあって、ものすごい熱狂ぶりであった。飛び交う言語は様々で、両手で足りないほど。伝えることに対して今まで生きてきた中で一番真剣になった気がする。

村上 太志（宇部教会）
韓国では過去の戦争を理由に反日感情を持っている国民が多いという事を事前に聞かされていましたが、私の出会った韓国人は皆そんな様子はまるで無く、とても世話好きな良い人ばかりでした。もしその「恨」を解消させたのがカトリックの存在なのだとすれば、これほど素晴らしい事は無いなと感じました。

佐藤 真実（エリザベト音楽大学）
一番印象に残っていることは韓国のミサである。聖歌を今どきの曲調にアレンジし、皆で楽しく歌っていた。そして神父様もパワフルな方たちばかりで活気に満ち溢れていた。また、ただ楽しく歌っているだけではなく、皆の祈りが込められていて、それがしっかりと伝わってきた。

ひとこと〈82〉

「司祭として日頃考えていること」

幟町教会　豊田 尚臣 神父

司祭として考えたり、思索したりしている唯一のことは、「こころをつくし、愛をつくし、思いをつくして、神を愛すること。第二の掟も同様である。隣人を自分と同じように愛しなさい。」幟町教会に来て三〜四年になるが思索の中心はこれである。

まず「神を愛する」であるが、外見的にも聖人の姿をしていれば「あの方は聖人の様だ」と他人から評価されることがある。しかし、外見も内面も哀れであればその姿は「あれは悪人の様だ」と思われる。従って、「愛」「アイ」と言っても、人間の行為としてすばらしい行為ばかりではない。

昔、キリシタン時代の世の中には「ミゼリコルディアの組」というのがあって、他人への善行（例えば病者の見舞いなど、他人にはわからないけど神様だけが御存知の善行）をするグループがあった。今でもこの組は無いわけではない。人に見られない様に神の呼びかけだけに応えて、そっと善行をしているのである。あなたもその様な善行と出会った経験はありませんか。

しかし今日の社会は、愛の価値の社会からグリーフ社会と呼ばれる様に変わりつつある。グリーフとは、悲しみ、哀れみ、つらさなど人の愛を感じさせない社会だが、その中味は単に「グリーフ社会」といって片付けられるものでない。

風紋

新しい大司教誕生の嬉しい気持ちと、広島教区長空位の寂しさが交錯する。一日も早く教区長が誕生しますよう神様のお恵みを祈りたい。

それにしても、近年、自然災害が多すぎる。地球が病気になっているのだろうか。その中で、ちっぽけな私たちは祈るしかないのだろうか。（の）